

- ② 充実する市立病院の医療体制
- ③ 地震への備えを見直そう
- ④⑤ 特集 安心して暮らせるまちに
交通死亡事故ゼロを目指して
- ⑥⑧ 街の話題/コラム/お知らせ



思いを乗せ 青空に舞う

道行く人々を楽しませる南毛利地区の風物詩

森の里鯉のぼりまつり



森の里地区では、約200匹のこいのぼりを飾ります。

《期間》 5月4日まで

《場所》 若宮公園
調整池付近他で見られます。

問 森の里公民館 ☎250-5262

問 南毛利公民館 ☎248-4309

木々が芽吹く5月、そよ風は時折、草花の香りを運んで来ます。風を吸い込み、大きく膨らんだたくさんこのぼり。爽やかな初夏の空を心地良さそうに泳ぐコイの姿に、子どもたちは目を輝かせています。

恩曾川の地蔵橋親水広場では2013年に、市内外から寄付されたこのぼりを川沿いに飾り「南毛利地区鯉のぼりまつり」が始まりました。主体となったのは、「恩曾川をきれいにする会」の皆さん。感染症の影響で開催を見送ってききましたが、再開を望む多くの声を受け、3年ぶりに開催することになりました。掲げられた約150匹のこいのぼりは、会の皆さんが「見る人を笑顔にしたい」と、一つ一つ飾り付けたものです。

皆さんから贈られ、地域の人の手で飾られ、道行く人の目を楽しませている色とりどりのコイたち。人々の思いを乗せて、悠々と青空を舞っています。

恩曾川のこいのぼり
3年ぶりに再開
5/6まで

Zoom Up

4月1日 がん診療連携指定病院に指定

充実する市立病院の医療体制

市立病院は、専門医や最先端の医療機器などを備えた総合病院です。地域の医療機関と連携し、皆さんの命や健康な暮らしを守っています。4月には、県のがん診療連携指定病院になるなど、より充実した医療を提供できる体制を整えています。

市立病院は、2003年に県から委譲されて以来、身近な総合病院として医療体制を充実させてきました。新型コロナウイルス感染症の対応でも、県の重点医療機関として酸素投与が必要な「中等症」の患者らを受け入れていました。4月からは県のがん診療連携指定病院になり、新たな役割を担います。

高度ながん医療を提供

がん診療連携指定病院は、質の高い医療を提供する役割があります。手術



高度な医療を提供



2017年12月に建て替えを終え全面オープン

や薬物療法などの専門的な医療の提供に加え、患者と家族の心身を支える「緩和ケア」も実施。地域の医療機関との連携や、患者への相談支援・情報提供などにも取り組みます。指定を受けたのは、県央地域で2病院目。市民だけでなく広域での高度ながん医療の提供に当たります。

市立病院の長谷川節院長は「指定を受け、これまで以上に診療の質を高めたい。患者会との連携、緩和外来の充実など総合的ながんケアを強化し、より安心で適切な医療を提供したい」と

力を込めます。

より信頼される病院に

市立病院は4月、県周産期救急医療システム協力病院にもなり、小児・周産期医療の体制も整えています。さらに、脳神経内科医・外科医が連携して患者を受け入れ、高度な治療ができる「脳卒中センター」の開設備も進めています。市立病院は今後も、皆さんに信頼される医療体制を整えていきます。

☎病院総務課 ☎21-1570

人や暮らしに寄り添ったサポートを



外科系統括診療部長
兼外科主任部長
渡部 通章 医師

2020年8月から指定に向けたプロジェクトチームを作り、病院が一丸となって取り組んできました。これからは、診療のレベルアップはもとより、がん相談支援センターや緩和ケアをさらに充実させていきます。

生涯で二人に一人ががんを患う時代です。精神的な負担や、治療に伴う生活・社会性の変化に対して、がん相談支援センターを中心に支えています。

5月12日は看護の日



一人一人が助け合いの心を持って過ごしましょう。

◆一日看護体験

日時 8月19日 8時45分～12時30分

場所 市立病院

内容 病棟での看護ケア体験

対象 市内や近隣市町村在住の高校生20人程度

☎6月30日までに市立病院HPから申し込み。抽選。



申し込みはこちら

☎病院総務課 ☎21-1570

安心安全な周産期対応

市立病院では自然分娩を基本に、総合病院の強みを生かし、多くの診療科が連携した周産期対応を実施しています。

■安心して出産できるように

帝王切開や無痛分娩での麻酔は、専門医が対応し安全で質の高い医療が提供できます。リスクの高い妊婦には、各領域の専門医と共に診療し、分娩には小児科医師が立ち会います。



■無痛分娩にも対応

麻酔科専門医が、安全で快適な無痛分娩を実施しています。出産時の痛みの緩和とストレス軽減が期待されます。金曜に「無痛分娩初診外来」を開設しています。

【予約】市立病院 ☎21-1570
(月～金曜 15～17時)

※「無痛分娩希望」と伝えてください。

■リスクの高い出産にも対応

高度な医療水準で一貫した対応を24時間体制で確保し、4月から県の周産期救急医療システム協力病院にも指定されています。



詳しくはこちら





住宅の状況も定期的に確認を

耐震化 市の支援

市では、三つの補助で耐震化を後押ししています。耐震改修をした住宅は、税金が控除・減額されます。

1 耐震診断補助【要事前審査】

《対象》①建物用途が一戸建ての住宅と兼用住宅
②地上2階建て以下③1981年以前に完成—の全てを満たす木造住宅（その他条件あり）

《助成額》上限7万5000円

2 耐震改修設計補助

《対象》1を受け、補強が必要と判断されたもの
《助成額》設計費用の3分の2以内（上限9万円）

3 耐震改修工事補助

《対象》2を受けたもの
《助成額》工事費用の3分の2以内（上限100万円*）、工事監理費用の3分の2以内（上限6万円）※非課税世帯で対象の住宅を所有・居住している方は上限150万円（2022年度拡充）

【分譲マンション】

■ 耐震アドバイザー派遣

《対象》1981年以前に完成した分譲マンション（その他要件あり）

《内容》マンション耐震改修の有識者を無料で派遣

■ 予備診断への補助

《対象》1981年以前に完成した分譲マンション（その他要件あり）

《助成額》診断費用の2分の1以内（上限15万円）

☎建築指導課 ☎225-2434

Zoom Up

災害に強いまちへ

地震への備えを見直そう

自然災害の発生は止められなくても、被害を小さくすることはできます。市では地震発生時の被害を減らすため、木造住宅の耐震診断などを実施しています。一人一人がいざというときに備えましょう。

市の補助で耐震化

3月に東北地方で、震度5強の地震がありました。市内で大きな被害はなかったものの、厚木に影響を及ぼす南海トラフ巨大地震や都心南部直下地震などの発生も想定されています。

市では、大きな地震が起きた際に被害を小さくするため、倒壊などの危険がある木造住宅の耐震診断・改修などを進めています。現法律の耐震基準を満たしていない住宅が耐震診断や改修工事などをした際、かかった費用を補助するもので、今年度は補助の一部を拡充しました（左欄参照）。他にも、倒壊の危険があるブロック塀の撤去などへの補助も実施し、災害に強いまちづくりを進めています。

一人一人が備えを

住宅の状況や非常時に必要な物品などは、人によって異なります。そのため、持ち出し品や避難経路などは、定期的に確認することが大切です。市では、洪水浸水や土砂災害、震度

公民館での耐震無料相談（予約制）

日程	場所	日程	場所
5月 19日	厚木北	8月 4日	愛甲
26日	厚木南	18日	睦合南
6月 2日	南毛利	25日	相川
16日	小鮎	9月 8日	緑ヶ丘
30日	依知南	22日	依知北
7月 7日	森の里	10月 6日	睦合北
21日	荻野	20日	玉川
28日	上荻野	27日	睦合西

《時間》13時30分～16時30分

☎開催前日の正午までに建築指導課 ☎225-2434へ。

などの危険度を掲載したオールハザードマップを新たに作成し、全戸配布しました（下記参照）。マップは市役所や公民館にも配架した他、市ホームページでも閲覧できます。災害は、いつ起こるか分かりません。一人一人ができることに取り組み、いざという時に備えましょう。

☎危機管理課 ☎225-2190

新型コロナワクチン関連情報

3回目接種

希望する方は予約してください。

12～17歳の方

※12～15歳は保護者、16・17歳は本人の同意が必要

《ワクチン》ファイザー社製

《接種時期》2回目の接種を終えて6カ月経過後

《接種場所》個別接種を実施する医療機関

接種券は、10月中旬までに2回目接種を終えた方へ、4月中旬に発送済み。



接種場所はこちら

18歳以上の方

《ワクチン》個別接種＝ファイザー・モデルナ社製

集団接種＝モデルナ社製

《接種時期》2回目の接種を終えて6カ月経過後

《接種場所》個別接種＝個別接種を実施する

医療機関

集団接種＝保健福祉センター



詳しくはこちら

☎新型コロナウイルスワクチン接種相談窓口
☎225-2792(8時30分～17時15分)

定期的に確認しよう

災害時の情報収集

災害時は、速やかに正しい情報を得ることが大切です。複数の手段で情報を得られるようにしておきましょう。



避難情報などは、防災行政無線で放送します。避難情報は、以下の方法でも確認できます。

● 市公式LINE

《登録方法》

- スマートフォンで「LINE」アプリをインストールし、ユーザー登録
- ID「@atsugi_city」で検索または二次元バーコードで厚木市のアカウントを友だち登録
- 受信設定→お知らせ受信設定から「防災行政無線」をオン（青色）に



登録はこちら

● 防災ラジオ

普段はラジオとして使え、緊急時は防災行政無線の内容を優先して放送。最新の放送内容を繰り返し聞けます。一般のラジオでも、市からの緊急情報を放送します。

- ◆FMヨコハマ (84.7MHz)
- ◆FMカオン (84.2MHz)

● テレホンサービス

☎0180-994422（有料）

- 防災行政無線メールマガジン
- 市ホームページ

● tvkデータ放送

《視聴方法》

- テレビで3チャンネル(テレビ神奈川)を選択
- リモコンの「dボタン」を押す
- 緑色のボタンを押し、厚木市のページを表示
- 「防災・安全情報」を選び、決定ボタンを押す

● 避難経路や持ち出し品も定期的に確認を

《オールハザードマップ》

市内の洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域・震度分布図・液状化危険度を掲載。

《防災ポケットブック》

災害ごとの対策や非常持ち出し品などを掲載。

いずれも危機管理課、公民館などに配架。市HPにも掲載。

厚木市 防災 検索



☎危機管理課 ☎225-2190

5月は自転車マナーアップ月間

自転車の交通ルールを確認

昨年、市内で起こった人身事故のうち、約2割は自転車に関係しています。事故に遭わない、事故を起こさないためにルールを再確認しましょう。☎交通安全課☎225-2760



自転車は車道の左側が原則、歩道は例外

道路交通法では、自転車は軽車両です。車道と歩道の区別がある所は原則、車道の左側を通行しましょう。



ルールを守って安全に

飲酒運転・二人乗り・並進・スマートフォンを操作しながらなどの運転は禁止されています。決まりを守って安全に乗りましょう。

歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行

歩道を通行する場合は車道寄りの部分を徐行、歩行者の通行を妨げるような場合は一時停止しましょう。



全年代に対象を拡大

自転車用ヘルメットの購入費を助成

自転車で転んだときに頭部の保護や、ダメージを軽減するヘルメットの購入費用を助成します。

- 【対象】 購入日に市内に住所がある方
- 【助成額】 1人につきヘルメット1個（上限1000円）※支払額が1000円未満の場合は購入額
- 【内容】 市内にある19の協力店舗で、ヘルメットを購入時に申請書を提出すると会計時に割引

☎交通安全課や公民館などにある申請書と現住所が分かる免許証や学生証を持ち、2023年3月31日までに協力店舗へ。



詳しくはこちら

参加者には購入費の助成有り

幼児2人同乗用自転車の乗り方講習会

幼児2人を乗せる専用自転車の乗り方講習会を開催します。参加者には自転車購入費を一部助成します。

- 【対象】 市内在住で小学校就学前の幼児が2人以上いる保護者で自転車を購入予定の方20人
- 【日時】 6月26日 10時～11時30分
- 【場所】 厚木シティプラザ
- 【助成額】 自転車購入費の半額（上限1万6000円）

☎電話またはファクス、Eメールに〒住所、氏名、電話番号を書き、6月20日までに交通安全課☎225-2421・☎3400@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。詳細は市HPに掲載。

家族で確認しよう

交通安全ルールの動画を公開

道路の渡り方や信号の見方などをまとめた子ども向けの動画を公開しました。家庭で交通安全について学んでみませんか。



詳しくはこちら

☎交通安全課☎225-2760

免許証を返納し安心した気持ちに

森屋 千恵子さん (87・栄町)



地域包括支援センターの職員と話す森屋さん

5年前に免許証を返納しました。子どもから、「事故を起こす前に返納できて良かった」と前向きな言葉を掛けてもらえ、間違えてなかったと感じています。しばらくは車のない生活に不便を感じることもありましたが、今はバスや電車を使う生活に慣れてきました。高齢者の交通事故のニュースなどを見ると、返納して良かった

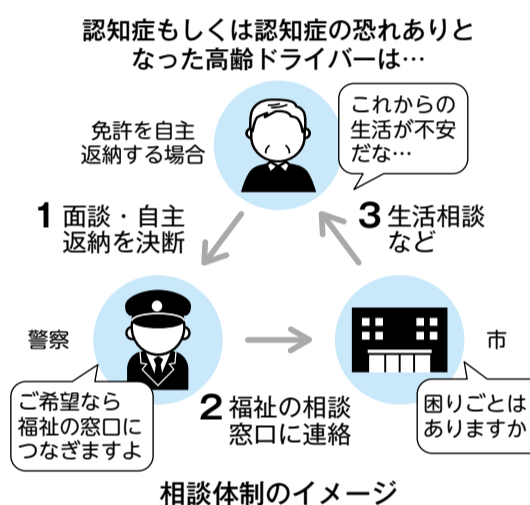
と改めて思います。

今は、地域包括支援センターの方など、相談できる方も身近にいて、ささいなことも相談できます。私自身は免許証の返納をきっぱり決断できましたが、なかなか踏み切れない方は身近な人に相談してみるのも一つの手段だと思います。

認知症などで運転免許証を返納した方の相談体制を整備

市では、認知症などで運転免許を返納した方の相談体制を整えるため、県警察と協定を締結しました。☎地域包括ケア推進課☎225-2047

身近な相談窓口の地域包括支援センターに関する情報はこちら

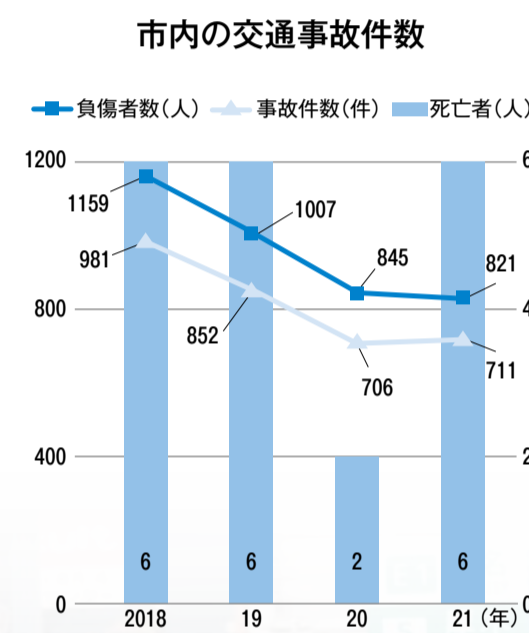


相談体制のイメージ

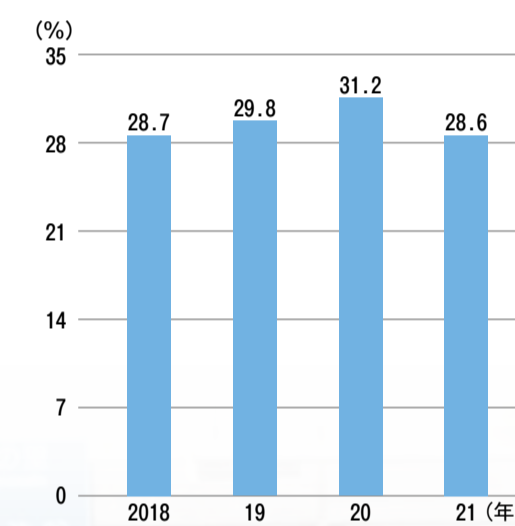
安心して暮らせるまちに

交通死亡事故ゼロを目指して

自転車や車は、私たちの生活に欠かせない移動手段です。便利さの一方で、運転中の不注意やルール違反は大きな事故につながります。特集では、事故件数の多い高齢者や自転車、重大事故につながりやすい子どもの安全対策などを紹介します。☎交通安全課☎225-2760



高齢者が関連する市内の交通事故の割合



子を持つ親としてできることを

依智北地区交通安全母の会 会長 川野 由美子さん(山際)



交通安全を呼び掛ける川野さん

会の活動は、子どもの登下校の見守りや交通安全運動のキャンペーンへの参加などです。会に加入したのは、子どもが小学4年生になった時。当時は母の会の存在自体、よく知りませんでした。活動しているうちに、地域の皆さんが子どもたちのために熱心な活動をしていて知り、自分もできることをやろうと思うようになりました。今はとにかく会を知ってもらうことが大事と考え、会報誌を発行。今後は、SNSを使った周知も考えています。

交通事故のない安全なまちにしたいという思いは、子どもを持つ保護者共通の思いだと思います。1件でも事故を減らすためには、みんなでできることに少しずつ取り組めると良いのではないかと思います。私は家でも、子どもとドライブレコーダーの事故映像や運転手の視点が見られる映像を動画配信サイトで見て、事故の恐ろしさや危ない箇所などを教えています。

会員募集 交通安全母の会

子どもから高齢者まで、幅広い世代の方に交通ルールやマナーを守る大切さを一緒に伝えませんか。

【対象】 交通安全に関心があり、地域での活動に意欲がある方
【活動内容】 登下校時の見守り活動や敬老会での交通安全の呼び掛けなど

☎交通安全課☎225-2760

少しの心掛けと対策が事故を減らす

ここ数年、市内の事故件数は減少傾向ですが、昨年は6人が交通事故で亡くなっています。

事故を起こさないように気を付けることは大切ですが、事故に遭わないよう、心掛けることも必要です。夜は明るい色の服を着て反射材を身につける、小さな子どもがいる家庭では子どもと手をつないで歩くなど、それぞれの立場で事故を減らす取り組みができます。

5月は連休で外出の機会が増え、普段通らない道を車や自転車で走ることがあると思います。慣れた自宅の周辺でも車通りが多くなることもあるので、いつも以上に気を付けましょう。



厚木警察署 交通第一課長 雨宮 忠行さん

子どもたちの笑顔あふれる児童館に

新しい厚木北児童館がオープン



竣工式でのテープカット

6年の鹿野広太さんは「以前の児童館がなくなるときは悲しかったけれど、新しい場所で遊ぶのが楽しみです。みんなと仲良く元気に遊びたい」と笑顔を見せました。

利用しやすくなりました。竣工式に参加した厚木小

は初となる小規模菜園も備え、収穫体験なども予定

老朽化や車の往来の多さなどの課題から新築移転工事が進められていた厚木北児童館が完成し、3月に竣工式を開催しました。新しい児童館は厚木小学校に隣接。段差のない構造で、和室や図書室、遊戯室などがあります。さらに市内の児童館では初となる小規模菜園も備え、収穫体験なども予定



自転車で地域の魅力を満喫

七沢・大山・宮ヶ瀬を巡るサイクリングマップを公開

市内から大山、宮ヶ瀬湖周辺へのサイクリングを楽しんでもらうため、特設サイト「厚木deサイクル」を開設し、スマートフォン向けのマップを公開しました。

マップは、東丹沢七沢観光案内所を起点に、市内を巡る初心者向けから、宮ヶ瀬湖を一望



市内の景観を楽しみながらサイクリングできる

コースを用意。グルメや温泉など寄り道できるスポットも掲載され、サイクリングと併せて周辺地域の魅力が楽しめます。初級の市内周遊コースを体験した常盤真樹子さん(妻田東)は「歩くよりも風が感じられて気持ちいい。マップがあると知らない道でも安心して楽しめる」と話しました。

多様性を認め合う世の中へ

パートナーシップ宣誓制度で2組が宣誓

性的少数者や事実婚をしている人の生きづらさの軽減と性の多様性への理解促進に向け4月に導入した市パートナーシップ宣誓制度で、8日までに2組が宣誓しました。制度は、人生のパートナーとして協力し合う関係を宣誓することで、市が二人の関係を公的に認めるものです。宣誓し要件を満たすと、市営住宅への入居申し込みや災害弔慰金、災害見舞金の受給などができるようになります。

2組目に宣誓した柳原麗菜さん(33)は「パートナーの証明となるものがもたらえて素直にうれしい。まだまだ法的な制約が多いので、誰もが普通に暮らせる世の中になってほしい」と話しました。



宣誓に訪れた柳原さんら

カーボンニュートラルの実現へ新たな一歩

EVごみ収集車1台を導入

電気(EV)ごみ収集車を導入し、3月に市環境センターでお披露目式を実施しました。

車両は、脱炭素社会を目指す市と三菱ふそうトラック・バス株式会社、新明和工業株式会社の3者が締結した協定に基づき、開発・製造が

進められてきました。車体は白と緑を基調に、太陽光パネルや風車などのイラストをラッピング。収集したごみを燃やして発電した電力をエネルギー源として走ります。EVごみ収集車は、3月15日から収集に当たっています。小林市長は「2050年カーボンニュートラルの実現に向けて新たな一歩を踏み出した。EV車を街中で見た市民の方にも、環境への取り組みを意識してもらえれば」と話しました。



協定を結んだ3者の代表がお披露目式に参加



第7回

みんなで! SDGs

持続可能な社会を目指す世界共通の目標「SDGs」。その達成のために17の目標を知り、できることから実践しませんか。

目標1 貧困をなくそう

世界では、子どもたちの6人に1人が「極度にまづしい」暮らしをしています。地球上のあらゆる形の貧困がなくなる社会を目指しましょう。



できる取り組みは?



寄付をしよう

寄付は私たちがすぐにできる取り組みで、日本にいながら海外の方を支援できます。お金だけでなく、食材を子ども食堂に届けたり、使わなくなった眼鏡や文房具を途上国に送ったりすることも寄付の一つです。

ボランティア活動に参加しよう

募金の呼び掛けや子どもたちへの学習支援など、身近なところで取り組めるボランティア活動はたくさんあります。できることから始めてみましょう。

企画政策課 ☎225-2450



たくさんの皆さんに支援いただいた街頭募金

罪のない人々の人権を踏みにじり、命を奪う軍事侵攻は許さない。今年2月、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻のニュースが世界中を駆け巡りました。多くの民間人が犠牲になり、連日の報道を目にするたびに強い憤りと心の痛みを感じます。平和を脅かす行為に抗議を表明するため3月10日、①ウクライナの自国を守る行動への支持②ロシアの侵攻に対する非難③ロシア軍の即時撤

退を求める声明を発しました。併せて街頭などの募金活動も実施。274万円の浄財を寄せていただき、国連難民高等弁務官事務所を通じてウクライナの地へ届けました。避難民対策としては、市営住宅の確保や相談窓口の設置、就学・就労支援などの受け入れ態勢を整えました。現在までに避難を希望する方の情報はありますが、いつでも対応できるよう備えています。ウクライナ情勢は、遠い外国の地で起きている「対岸の火事」ではありません。「国際平和と核兵器廃絶を求める都市」に住む一人として、今を共に生きる人々が受ける理不尽に怒り、身近な出来事として行動していきたいと思っています。

タウンガイド

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ☎=ファクス番号 ☎=Eメール HP=ホームページ
 ☎=講座予約システム(インターネットで申し込み可)
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「雪の大山と桜」

#4月1日撮影
 #雪と桜
 #岩田山公園
 #niceatsugi
 広報課公式インスタグラムで公開中



新型コロナウイルス感染症に関する県の相談窓口

新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル(24時間対応)

感染の不安のある方、健康・医療の相談、診療ができる医療機関の案内など

☎0570-056-774

新型コロナウイルスの影響で掲載の催しが中止となる場合や、利用に制限のある施設があります。市HPで随時お知らせします。

厚木市民朝市

日曜、6～7時。文化会館。市内産の農畜産物や加工食品などを販売。
 ☎農業政策課☎225-2801。

夕焼け市

11月2日までの水曜、17～18時。荻野運動公園。市内産の農産物や加工食品などを販売。
 ☎農業政策課☎225-2801。

応急手当講習会

普及員再講習会

6月4日、9時～。応急手当普及員の有効期限の更新や技能の維持・向上のための講習。有効期限内で市内在住在勤在学の応急手当普及員15人。

普通救命講習会

6月10日、13時30分～。応急手当の重要性、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなど。市内在住在勤在学の中学生以上15人。
 いずれも消防本部。各回180分。無料。☎5月2～12日に救急救命課☎223-9365へ。抽選。

都市農業振興計画中間見直し検討委員を募集

計画の見直しや農業の振興策などを審議・検討する委員を募集します。

《対象》①市内在住で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(3回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・

職員でない①の全てを満たす方3人《任期》7月～2023年3月31日《報酬》日額7800円(交通費含む)。
 ☎公民館や市HPなどにある申込書を、直接または郵送、Eメールで5月31日(消印有効)までに〒243-8511農業政策課☎225-2800・☎3600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

糸満市青少年平和学習訪問団員を募集

友好都市の沖縄県糸満市を訪問し、歴史や文化を学びませんか。
 《期間》7月26～29日《対象》市内在住の中学生6人《参加費》4万円。
 ☎市HPにある応募用紙を郵送、Eメールで6月15日(必着)までに〒243-8511企画政策課☎225-2050・☎1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

市民活動を支援する制度

市民協働提案事業

地域の課題解決などのため、市民と市が協力する事業と、一緒に取り組む団体を募集します。

市民提案型事業=事業は団体が提案。行政提案型事業=地球温暖化防止・省エネ行動普及啓発《対象》①市内に活動拠点がある②3人以上の役員を置き、構成員の5人以上が市民③運営に関する会則があり適正に会計処理している④などの要件を満たす団体《負担額》上限200万円。

市民活動推進補助金

ボランティアなどの公益的な活動をする団体に、事業費の一部を補助します。

スポーツなじみDAY

年齢を問わず楽しめるニュースポーツで、爽やかな汗を流しませんか。

☎スポーツ推進課☎225-2531

日時 5月21日 10時～15時30分

場所 荻野運動公園

種目

屋内=ボッチャ、バウンズボール、ドッジビー、カーレット、ビーチボール、体力チェックコーナーなど

屋外=ティーボール、ターゲット・バードゴルフなど

※雨天時は屋内のみ。室内履きをお持ちください。

☎当日直接会場へ。



無料



《対象》①不特定多数の市民の利益増進が目的②市内に事務所や活動拠点がある③構成員が3人以上④などの要件を満たす団体《補助額》対象経費の3分の2(上限15万円)。

いずれも負担・補助額は活動年数で異なる。☎市HPなどで手引きを確認し、6月3日までに市民協働推進課☎225-2141へ。☎は5月27日までに事前相談が必要。

生産緑地地区の指定申し出を受け付け

《事前相談期間》5月9～20日(土・日曜を除く)《申出期間》5月23～27日《場所》都市計画課《対象》幅員4m以上の道路に接し、防災協力農地に登録見込みなどの指定要件を満たす市街化区域内の一団で300平方m以上の農地。☎都市計画課☎225-2401。

都市計画変更案の縦覧・意見書受け付け

南部産業拠点(酒井地区)の都市計画(用途地域、土地区画整理事業、地区計画)と、都市計画道路酒井長谷線の変更案を縦覧します。
 《期間》5月17～31日、8時30分～

17時15分(土・日曜を除く)《場所》都市計画課または市HP《意見書提出》都市計画課や市HPにある意見書を直接または郵送、ファクス、Eメールで〒243-8511都市計画課☎225-2401・☎222-8792・☎4600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

5月12日は民生委員・児童委員の日

民生委員・児童委員は地域の身近な相談役です。高齢者や障がいのある方、子どもに関する相談など、気軽に相談してください。地域を担当する委員は、福祉総務課に問い合わせてください。☎福祉総務課☎225-2200。

5月は「あつぎ子ども月間」

家族の絆を大切にするとともに、地域で子育てへの関心・理解を深めて支え合いましょう。☎子ども育成課☎225-2262。



《意見交換会》

■市耐震改修促進計画の改定

5月16日、19～20時。市役所第二庁舎。☎建築指導課☎225-2434。

モバイルレジで市税などの支払いが可能に

請求書に印刷されたバーコードをスマートフォンで読み取り、モバイルバンキング・クレジットカードで支払えるサービスです。コンビニや支払い窓口へ出掛けずに、自宅で簡単に支払えます。

☎収納課☎225-2020

(他に電子マネーが使えるもの)

LINE Pay、Pay Pay、au PAY、d払いなどの請求書払い

詳しくは市HPに掲載▶



ホット インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課☎225-2043

4月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆北京2022冬季五輪での大塚健選手の活躍にテレビにくぎ付けで応援した。感動をありがとう/70代以上女性 ◆荻野運動公園は避難場所なので蓄電池の設置は心強い/40代男性 ◆今後の移動手段を考えていたのでコンパクト・プラス・ネットワークの記事は参考になった/50代女性 ◆少年少女フェスティバルに娘と行きたい/30代女性 ◆広報写真コンクールの作品を見て気持ちが明るくなった/50代女性

編集後記

特集の取材で、市内の交通事故の件数や実際に起こった事故の様子を聞きました。交通事故が起こらないようにするには、一人一人が交通安全に関心を持ち、ルールを守ることが大切だと改めて感じました。事故を起こさないことはもちろん、夜、外を歩くときは車の運転手から歩行者だと分かりやすいよう、明るい服装や反射材を着けるなど事故に遭わない工夫も取り入れながら生活したいと思います/黒澤

あつまれ 厚木の大学生

学生の視点で市のイベントを企画・運営したり、まちの魅力をPRしたりする大学生を募集します。

☎商業にぎわい課 ☎225-2840



《対象》市内5大学(神奈川工科・松蔭・湘北短期・東京工芸・東京農業)の学生
☎電話またはEメールに氏名、学校名、学年を書き、商業にぎわい課 ☎3800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。



イベントや学生同士の交流が魅力

あつぎにぎわいアドベンチャー隊
松蔭大学4年 下澤 祐希さん

先輩の紹介でアドベンチャー隊を知り、イベント開催に関われるのが楽しそうと思い2年生の時に加入しました。コロナの影響で活動は限られていましたが、飲食店などを応援する動画を作ったり、SNSで市内のお薦めスポットやお店を紹介したりと、コロナ禍ならではの活動もできました。商業施設と連携したハロウィンイベントでは、仮装してクイズラリーを開催しました。子どもたちがたくさん来てくれて喜ぶ顔が見られ、久しぶりにイベントの楽しさに触れられて充実感がありました。学校ではサークルや勉強など学内の活動になりがちなので、アドベンチャー隊で他大学の仲間ができたことは貴重な経験だと思います。

どんな活動をするの?

あつぎ 元気Wave
5/1~CATVで放送

市内5大学の学生が、まちを盛り上げるために市と協働でイベントの企画・運営などを行っています。

《昨年の活動内容》SNSを使った市内の魅力発信、市内商業施設と協力したハロウィンやクリスマスイベントの開催など



ハロウィンイベントの様子

Instagramで
情報発信中



自然歳時記

● イタチ ●
イタチ科

胴体が雄で約30センチで雌20センチ。川や水田でまねに見掛ける。日本の固有種だが、生息環境の悪化で個体数は激減している。市レッドデータ準絶滅危惧種/玉川下流の雑草の繁茂した川べりで見つけた。 写真・文 吉田文雄



向こう岸にいたイソシギが、驚いた顔で飛んで来た。見ると、何かをくわえたイタチがトコトコと走って来た。大きな獲物をじゃぶじゃぶ引っ張っていたが、石の上にジャンプした。力持ちだと感心したが、獲物を見て二度驚いた。大きなナマズだ。イタチは疲れたのか

少し休み、辺りを見回して獲物をくわえ直すと急ぎ足で駆けて行った。ナマズは市のレッドデータ絶滅危惧Ⅱ類で、数は少ない。イタチもナマズも生息環境の悪化と闘いながら生きているのだろう。鼻の周りが黒くて愛嬌のあるイタチを、初夏の光がいつまでも温かく見守っていた。

厚木市の人口
(4月1日現在)



世帯数 10万2284世帯 (前月比471世帯増)



人口 22万3506人 (前月比104人増) 男11万5053人・女10万8453人